

## 資料 4

「歯学教育の改善・充実に  
関する調査研究協力者会議」(第4回)

H20. 10. 28

## 臨床実習の量的提示について

## 【 歯 科 】

臨床実習の細目	A国立大学歯学部*	米国歯科大学54校平均
口腔保健に関する実習	1	4
歯・歯周組織の疾患に関する実習	13	17
歯の欠損・咀嚼障害に関する実習	17	14
口腔・顎・顔面領域の疾患に関する実習	4	7
障害者・高齢者に関する実習	1	1
不正咬合・成長発育に関する実習	3	5
全身管理に関する実習	1	4
心因性疾患に関する実習	1	1
合 計(週数)	41	53

\*:本邦における臨床実習の量的実態を示す資料は乏しい。見学を含む本実習は33週間(全29校平均:「臨床教育実習のあり方平成5年」)であり、患者治療、見学介助、シミュレーション及び技工操作等を含む臨床実習が26週間(国立大学歯学部7校の平均:「国立大学歯学部における卒前臨床実習相互評価及び改善報告書平成11年」)であるとする集計がある。本表では、本邦で臨床実習が量的に最も充実している部類に属するA国立大学歯学部のを例示した。

出典:歯学教育モデル・コア・カリキュラム—教育内容ガイドライン—(平成19年度改訂版)

## 【 医 科 】

単位:週、-:不明確なもの

臨床実習	本ガイドライン	本邦平均(20校)	米国平均(15校)	ハーバード医学校
内科	12	9.5	12.3	16
外科	8	5.6	10.7	12
小児科	4	2.7	7.6	6
産科婦人科	4	2.4	6.9	6
精神科	2	2	6.1	4
家庭医学	0	0	5.9	3.6
救急	4	-	-	-
選択	16	-	24	24(基礎を含む)
合計	50	33.8	76.8	79.6

※ 米国においては「家庭医学」に相当の時間を充てているが、我が国においては内科、外科、小児科、産婦人科などに分散されるため、独立した形では示さなかった。また、「救急」を別立てにしたが、米国では内科や外科などに救急が含まれる形になっており、この期間のすべてを、救急を専門とする部門で学ぶという意味ではなく、内科や外科などでも救急疾患を学ぶことを想定して設定したものである。

出典:医学教育モデル・コア・カリキュラム—教育内容ガイドライン—(平成19年度改訂版)